

地域を支え、明日を創るCSR活動報告 **現場を見る・知る・学ぶ**

一般社団法人福岡県建設業協会では、人材育成の一つとして、毎年高校生の現場見学を支援しています。

MARK IS 福岡ももち新築工事

2018年2月2日(金)

福岡県立浮羽工業高等学校 建築科/2年生

DATA:2018年秋開業予定 延床面積:約125,000㎡
構造:鉄骨造,本体棟/地上4階・棟屋1階
施工場所:福岡市中央区地行浜
施工会社:竹中・銭高・小林・松本・坂下JV
工期:2017年6月1日~2018年10月31日(17か月)

福岡ヤクオク!ドームの前に新設される「MARK IS 福岡ももち」の工事現場見学の日は、あいにくの雨。広大な敷地の現場では、大きなクレーンが数台、休みことなく鉄筋や鉄骨を移動させていました。この工事の特徴は、最先端技術を搭載した工事現場だということ。例えば、「波形鋼板耐震壁」やライブハウスの床を振動・音対策の配慮した浮き構造の床、さらには、全国的にも珍しい鉄骨造の基礎など、ほかにもあらゆる箇所に革新的な技術の導入がみられます。1時間かけてまわった現場では、その大きさに圧倒されるばかりの高校生達でした。



建築学科2年
中垣 穂乃花さん

1つの建築現場では、色々な職種の方が協力し合って建築物を完成させていることがとても印象に残り、普通の学校では見ることができない機械や現場の雰囲気や経験を学ぶことができ、とてもいい経験になりました。将来は、建築業界で活躍できる女性になりたいと強く思いました。



建築学科2年
外本 大宜さん

緑を取り入れた「自然共生型」の素晴らしい建築物の工事は、最先端技術を駆使し全く新しい工法が導入されていたことに驚きました。私が建築現場で働く頃には、もっと工事の手法も変わっているのだろうと将来を重ねながら見学ができ、身が引き締まりました。



施工会社JV企業的小林建設担当者、高浪さんと三浦さんは浮羽工業高校の出身。三浦さんは「こうして形になっていくと自信ややりがいにつながり感動する」、全体説明をされた竹中工務店の山崎さんからは「ありがとうございますとお客様に言われている時に本当にやってよかったと思う。建築という仕事はここにしかないもの。自分たちが挑戦してきたことの証でもある」と、体験談にも熱が入りました。

小石原川ダム本体建設工事

2018年5月31日(木)



見学後は寺内ダムにて、昨年起こった北部豪雨の事例を主軸にダムの役割・動きの説明を受けました。



福岡県立三池工業高等学校

土木科 3年生/37名
2年生/29名

工期:2016年4月5日~2020年3月31日

発注者:独立行政法人 水資源機構

施工場所:福岡県朝倉市及び東峰村

施工業者:鹿島・竹中土木・三井住友特定建設工事共同企業体

5月31日、福岡県立三池工業高校土木科の生徒が小石原川ダムの建設現場を見学しました。小石原川ダムの主な目的は、洪水調節、渇水対策、水道用水、不特定用水の4つ。同市内にある江川ダムの主な目的は、農業・水道・工業用水の供給で役割が異なります。当日はマイクロバスに乗り換え、ダム工事現場を車内にて見学。日本に5台しかない大型油圧ショベルや、現場に設置されたコンクリート製造機、巨大な給油場など、普段の生活では見る機会のない巨大な建造物や重機一つひとつの迫力に圧倒されていました。その後、小石原川ダム管理棟が建築中の左岸天端にてダム全景を一望した一行。小石原ダムの高さは139mで、完成すれば九州圏内のダムで一番の高さを誇ります。これまで見学してきた重機が小さく見える事実、改めてダム工事の大変さを理解したようでした。



土木科3年
中川原 直幸さん

今後の進路は道路関係に進もうとこれまで考えていました。けれど今回の現場見学で、自分の中で新たな可能性が思い浮かんだように思いました。外で働いて残るものを造りたいという気持ちは変わりませんが、今回の見学会で得た経験を活かせるように頑張りたいです。



土木科3年
栗富 友祐さん

初めて見学したダム現場は想像以上の規模で驚きました。特に現場に携わっている人の多さに、いかに自分たちの生活が多くの人に支えられているかを知ることができた気がします。この感謝の気持ちを忘れずに、小さい頃から夢だった鉄道関連の仕事に就けるよう努力していきます。